

第5章 もう、始まっています

実践編

戦略の達成に向けた5つの動き



(1) 健康なまちづくりにつながる動き

緑をまもり、ふやす制度の活用

戦略との関わり ▶

戦略1

方針1

(1)－②

(2)－②

名古屋市緑政土木局・住宅都市局

緑化地域制度による緑の創出

〇目的

名古屋で暮らし、働く人たちの生活環境を守るためには、これまでの公園や街路樹などの整備に加え、市・市民・事業者が共に手を携えて民有地における緑の確保に取り組むことが必要。

そのため、一定規模以上の敷地における建築物の新築等を行う場合に緑化を義務付ける「緑化地域制度」を、平成20年10月に施行。

〇概要

- ・対象：300m²以上の建築物の敷地（建ぺい率の最高限度が60%を超える区域は500m²以上）における全ての新築及び一定規模以上の増築。
- ・緑化面積割合：建ぺい率の最高限度が50%以下で敷地面積の20%以上、50%を超え60%以下で敷地面積の15%以上、60%を超える区域では敷地面積の10%以上。

〇これまでの実績

平成21年10月末までの申請件数は1,449件、緑化面積の合計は523,220m²となっています。



緑化前



緑化後

都市計画制度（都市再生特別地区）の運用

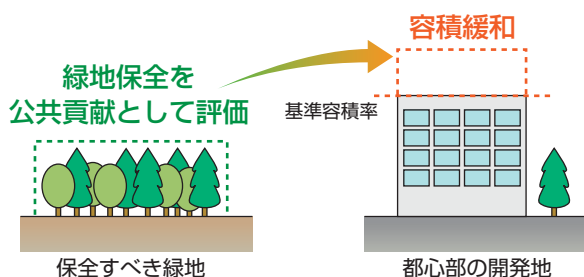
〇目的

緑地の保全・創出をはじめとする地球環境の保全・改善に寄与する都市開発プロジェクトの誘導。

〇概要

都市再生特別地区制度の運用にあたっては、緑地の推進など都市再生に寄与するプロジェクトに対し、相応の容積率の割り増しを行っております。

今後は、都心部等において開発を行う際に、開発地での十分な都市再生貢献とともに、都市環境の改善・向上への取り組みとして、市内の良好な緑地などの都市の環境資産を保全・活用する場合にも、当制度の適用を検討していきます。



運用のイメージ

緑の回廊・水の回廊の形成（案）

戦略との関わり ▶ 戦略1 方針3 (2) - ①

名古屋市緑政土木局

○概 要

生物多様性の保全や、伊勢湾や郊外地域と名古屋の市街地とのつながりを確保、すがすがしい空気を街なかによびこむといった観点から、緑の保全・創出は、既存の河川等を軸とした一定の区域において優先的に推進することが効果的といえます。

そこで、「緑の回廊・水の回廊形成区域」を設定し、既存の緑を保全しながら新たな緑を創出することによって、緑と緑をつないでいく取り組みを検討していきます。



○取り組みの例

- ・「緑の回廊・水の回廊形成区域」の設定
- ・河川を中心とした緑の形成
- ・道路を中心とした緑の形成 など

名古屋ため池生き物いきいき計画事業

戦略との関わり ▶ 戦略1 方針2 (2) - ①、③

名古屋ため池生物多様性保全協議会

○目 的

- ・外来生物の除去による対象地域の生物多様性の向上
- ・市民を対象とした普及啓発活動による生物多様性の保全意識の向上

○活動期間

平成20年度～平成22年度

○活動主体

名古屋ため池生物多様性保全協議会

(八事学区連絡協議会、隼人池を美しくする会、名古屋ため池調査実行委員会、なごやの森づくりパートナーシップ連絡会、なごや環境大学実行委員会、名古屋市)



○活動概要

- ・市内の主要なため池を対象に、水質・生物調査を行い、現状を把握
- ・モデルため池を対象に、池干しの実施とその効果の確認
- ・名古屋市における総合的な生物多様性の保全・再生方法を市民を交えて検討
- ・生物多様性体験学習プログラムを開発・実践し、市民の生物多様性への理解を深める

(2) 暮らしやビジネスの変化につながる動き

間伐材プロジェクト

戦略との関わり ▶ 戦略2 方針2 (1)－②

市内中小企業

○目的

“名古屋市中流域の間伐材を使用した商品”の販売活動を通して、都市と山間部が連携した持続可能な商業流通活動のしくみを構築する。

(生物多様なごや戦略しゅんプロジェクト)

○活動主体

市内中小企業

○活動概要

- ・名古屋市中区 大須商店街内に実店舗を開設し、一般消費者及び法人企業に対して、間伐材を使用した商品の展示及び販売を行う。
- ・また、購入者の声を取り込み、岐阜県加子母地区に伝え、市場に合わせた商品開発を継続的に行い、継続的に新たな商品を提供する。
- ・結果として、“21世紀にあるべき持続可能な商業流通”による環境保全のあり方を実現する。

山間部



岐阜県
加子母

都市

製品・商品の供給

【新たに開発した商品】



名古屋市中区にある実店舗



顧客ニーズのフィードバック

【顧客ニーズに合った商品開発】



持続可能な商業流通のかたち

市民水田

戦略との関わり ▶ 戦略2 方針1 (1) - ②

名古屋市緑政土木局

〇目的

- ・市民が、米づくりを通して、農業や環境について学び、農家と交流することにより、市民の農業への理解を深める。
- ・市民水田の運営ノウハウの蓄積やボランティアの育成を行う。
- ・生き物観察を通して、市民が自然とふれあい、生物多様性や水田の環境に対する役割についての理解を深める。



〇活動主体

行政、地元農家、市民

〇活動概要

- ・体験水田：市民が、田植えから収穫までの作業を、手作業で体験
- ・ボランティア実習水田：稲作体験や水田管理の補助を行うボランティアを育成
- ・生き物観察：市民が自然とふれあうため、田んぼに棲む生き物の観察会を開催
- ・交流：稲作体験や収穫祭などを通して市民と農家の交流を図る

上下流交流

戦略との関わり ▶ 戦略2 方針3 (3) - ①

名古屋市上下水道局

〇目的

水源地の保全および流域全体の水環境の保全を目的として、さまざまな流域関係者との連携・協働が促進されるための環境づくりをめざした、上下流交流モデル事業を実施する。



モデル事業「ほりかわ楽市楽座」

〇事業概要

(1) ほりかわ楽市楽座(平成21年11月～)

「市民まちづくり風の会」が主体となって、納屋橋での地産地消マーケット開催や、連携団体との交流などを実施

(2) 水の恵 観光物産展(平成22年1月23・24日)

アスナル金山を会場に、上流地域の観光・物産展、パネル展示、きき水コーナーなどを開催

(3) 新しい担い手や地域づくりにつながる動き

エコフレンドシップ事業

戦略との関わり ▶

戦略3

方針2

(1)ー②

名古屋市教育委員会

なごや子ども環境会議

○目的

環境首都なごやを担う人材の育成

○活動主体

名古屋市教育委員会

○活動概要

参加人数：500～750人

参加児童生徒：環境未来探検隊、政令指定都市等の児童生徒、
名古屋市立小中学校生

会議の内容：

- ・生き物を守るために、自分たちの生活を見直す提案等
- ・生き物を守るための取組についての意見交換
- ・参加した子どもたちで誓い合うメッセージ
- ・「生き物マップ」「生き物カード」の展示



メッセージの手渡し



生き物マップの展示

環境未来探検隊

○目的

自然豊かな地での体験活動や自然を守る人たちとの交流

○活動概要

参加児童生徒：各区の小学生1名、中学生1名

派遣日程：8月上旬3泊4日

主な派遣先：平成18年度釧路湿原、平成19年度阿蘇草原、平成20年度豊岡市、
平成21年度佐渡市



地元小学生との交流



自然体験

生物多様性 「NAGOYA しみんプロジェクト」

戦略との関わり ▶ 戦略3—方針3—(1)—①②

なごや環境大学実行委員会

○目 的

生物多様性に配慮した「安心・安全な質の高い生活空間」としてのまちづくりを、「なごや環境大学」に集う「しみん」の自発的な行動を誘発する3つの「しみんプロジェクト」で実現する。

○活動概要

(1) チョウが舞い、野鳥が歌う“生物多様性公園”プロジェクト

生きものとのふれあいが不足しがちな都市住民のために、チョウやトンボ、野鳥など、四季を感じられる生きものを見たり、聞いたり、触れられる、「生物多様性公園」を増やしていく。

(2) “おうちビオトープガーデン”プロジェクト

点在する緑を繋ぎ、生物多様性保全に貢献する取り組みとして、民家の庭やベランダ、事務所の敷地内などでの自然再生、生きものとのふれあいの場となるビオトープガーデンづくりを進める。

(3) “学区でおやちゃい”プロジェクト

「食と生物のかかわり」といった生活文化の視点から生物多様性を学ぶとともに、地域公園で伝統野菜や薬などにもなる野草の栽培を推進する。



“学区でおやちゃい”プロジェクト

バケツ稲づくり

戦略との関わり ▶ 戦略3—方針1—(1)—②

名古屋市環境局

○目 的

- ・ 稲が太陽・土・水などの自然の恵みを受けて実ることを五感で学んでもらう。
- ・ 生物資源である食べ物への感謝の気持ちを育てる。
- ・ 我々の暮らしが生物多様性の恩恵で成り立つことを実感してもらう。

○活動主体

名古屋市環境局環境都市推進部生物多様性企画室

JA愛知中央会農政営農部(協力)・社団法人名古屋建設業協会(協力)

○活動概要

- ・ 市内の1,250人の園児を対象にバケツで稲づくりを体験してもらう。
- ・ 田んぼの生きものに着目した稲作りを推進する講師を向かえ、園児や保護者、教員への講習会を開き、さまざまな生きものの恵みにより食べ物が成り立っていることを理解してもらう。
- ・ 園児たちの取り組みを広く市民に広報することにより、生物多様性への理解のきっかけとする。



(4) しくみづくりにつながる動き

情報交流の拠点づくりをめぐる動き

戦略との関わり ▶

戦略4

方針2

(3)-②

市民団体ほか

市民調査員

平成20年度から実施されている「ため池生き物いきいき計画事業」では、これまで連携のなかった地域住民、専門家、行政等が協力して、生物調査や外来種の駆除等を行っています。平成21年度は述べ170日、2,800人の市民調査員が活動に参加するなど、取り組みが着実に拡大しています。

このような市民による調査活動によって集められたデータや人のネットワークは、今後の名古屋の生物多様性の情報交流につながっていくものです。



生物多様性センター勉強会

また、市民や研究者が中心となって、生物多様性の拠点づくりに向けた勉強会が開催されています。

〇目的

「生物多様なごや戦略」を進めていくための基軸施設としての生物多様性センター設立の必要性について、情報の共有と意見交換を行う。
(生物多様なごや戦略しみんプロジェクト)

〇活動主体

市民団体、研究者など

〇活動概要

- ・第1回勉強会(平成21年10月30日)「私たちの自然と博物館」

講師：糸魚川淳二氏(名古屋大学名誉教授)

- ・第2回勉強会(平成21年11月26日)「生物多様性センターに求められる機能 自然史系博物館を先事例として」

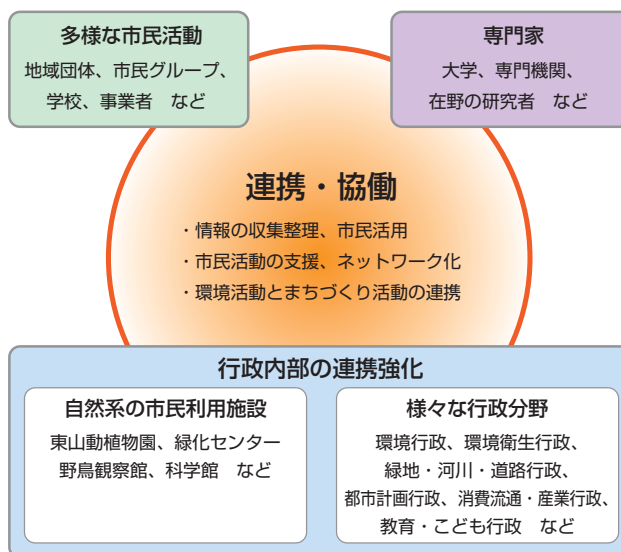
講師：佐久間大輔氏(大阪市立自然史博物館学芸員)

- ・第3回勉強会(平成22年1月28日)

講師：芹沢俊介氏(愛知教育大学教授)

- ・生物多様性センターシンポジウム(平成22年3月28日)
「生物多様性保全における拠点機関の役割—COP10を契機として」 ※共催：名古屋市科学館、日本植物分類学会

コーディネーター：芹沢俊介氏(愛知教育大学教授)



第1回勉強会

生物多様性研究センター

戦略との関わり ▶ 戦略4 方針2 (3) - ②

名古屋市立大学

○概 要

名古屋市立大学滝子(山の畑)キャンパスに、生物多様性研究センターを設立し、周伊勢湾要素植物など東海地区固有の生物を始めとする様々な生物の遺伝子標本の収集・保存を行い、各生物種に特有のDNA情報を解析し、生物の進化・分化の解明に取り組むなど、主に遺伝子の観点から生物多様性の研究を行っていきます。



○今後の取り組み

- ・ 標本収集と遺伝子解析(東海地区固有の生物等のDNA収集とDNA情報の取得)
- ・ 生物多様性の機構解明(遺伝情報からみた進化と環境適応の研究)
- ・ 生物多様性の現状調査(遺伝的多様性、外来種侵入状況、交雑状況などを遺伝子の観点から調査)
- ・ 市民や関連機関との連携・協力(生物多様性に関する市民への啓発や関連機関との連携・研究協力)

生物多様性国際自治体会議 議長都市としての役割の遂行

戦略との関わり ▶ 戦略4 方針1 (2) - ①

名古屋市環境局

○概 要

国際自治体会議は、COP10に併催する自治体間での情報交換・経験交流などを行う会議です。本市は、議長都市として、世界の自治体に対し先導的な役割を果たすことが国際的に求められています。

具体的には、本市をモデルとして、生態系サービスの定量的な把握、分析に基づき、本市の施策・事業に生態系に配慮する視点を取り入れるよう関係各局に呼びかけを行います。また、調査結果について国際自治体会議において報告し、世界の自治体に対し、問題提起を行っていきます(名古屋イニシアティブ)。

○取り組みの事例

- ・ 生物多様性国際自治体会議の開催
- ・ 宣言文の調整
- ・ 名古屋イニシアティブの遂行



(5) 横断的な取り組みに向けて

3つの環境戦略と緑の基本計画

戦略との関わり ▶

戦略4

方針1

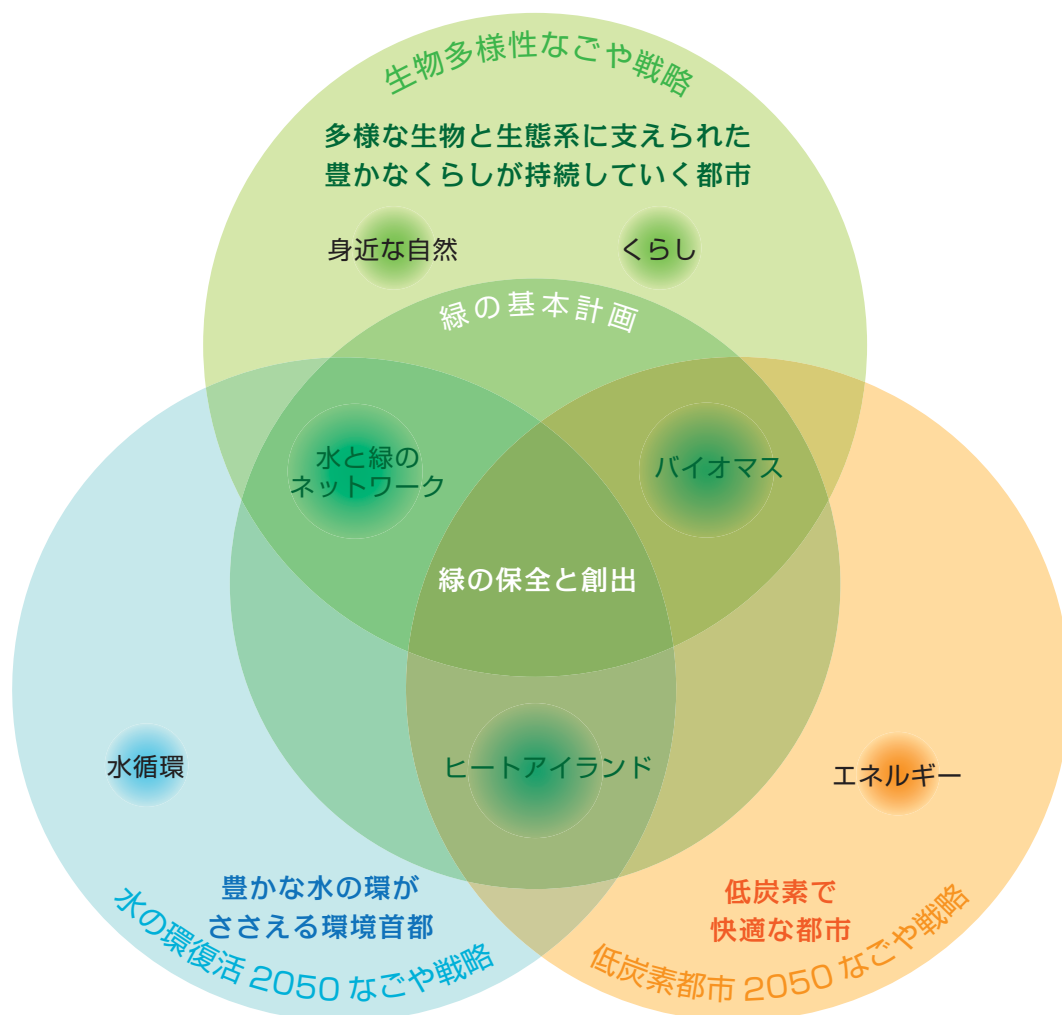
(1)-①

現在、名古屋市では、この「生物多様なごや戦略」以外に、生物多様性の保全と深い関わりを持つ、2つの環境戦略が策定され、1つの基本計画の改定に向けた検討が進んでいます。

「生物多様なごや戦略」「水の環復活2050なごや戦略」「低炭素都市2050なごや戦略」の3つの環境戦略では、持続可能な都市なごやを目指すための2050年に向けたビジョンを示し、現在改定作業中の「緑の基本計画」（目標年次 2020年）では、緑の保全と創出に向けた具体的な施策や推進体制を示していきます。

これらの戦略や基本計画以外にも、現在、見直しが検討されている名古屋市の様々な計画や施策に、生物多様性の保全を盛り込んでいきます。

連携でめざす日本の風土を活かした環境都市なごや



水の環復活 2050 なごや戦略

○概 要

都市化によって損なわれた健全な水循環を回復し、豊かな水の環がささえる「環境首都なごや」の実現を目指します。長期的に実現したい、水循環に関する名古屋の将来像と数値目標を示しました。(平成21年3月策定・環境局)

○水収支の目標

蒸発散： 31%
浸透・貯留： 33%
直接流出： 36%



低炭素都市 2050 なごや戦略

○概 要

地球温暖化の原因である温室効果ガス排出量と枯渇が懸念される化石資源消費の大幅な削減を目指した低炭素社会を実現するために、市民・事業者・行政などの主体が共有すべき将来像や施策の方向性をまとめました。(平成21年11月策定・環境局)

○挑戦目標(温室効果ガス)

中期(2020年)：25%削減(1990年比)
長期(2050年)：8割削減(1990年比)



緑の基本計画の改定

○概 要

名古屋市緑の基本計画は、緑地の保全及び緑化の推進に関する施策を総合的に展開するための計画で、その根拠は都市緑地法に規定されています。現在、平成23年度から実施となる、新しい基本計画への改定作業を進めています。(平成22年度策定予定・緑政土木局)

○取り組みの方向性(案)

- ・ 緑の総量アップ！
- ・ 人と生き物が快適に暮らすまちづくり
- ・ みんなで取り組む緑のまちづくり



